

広島大学所藏漢籍目録

— 広島高等學校・広島大學教養部・総合科学部舊藏本 —

赤 迫 照 子

【キーワード】漢籍、目録、四部分類、広島大学、広島高等学校、広島大学教養部、広島大学総合科学部

はじめに — 目録作成までの経緯 —

広島大学の前身九校の一つ、旧制広島高等学校¹は大正十二年(1923)、広島市皆実町(当時。現在は広島市南区翠一丁目)に設置された。略称は「広校」である。『広島大学五十年史』²によると、広島高等学校は勉学に熱心で、「卒業生の進学先は東京・京都の両帝国大学が圧倒的に多く、全国の高専学校のなかでも優秀な成績を残した」(通史編12頁)という。しかし『広島高等学校創立五十年記念誌』³を読めば、ただ勤勉だけではなく、中心市街地近くにあって学校ならではの自由な「遊び」もある学風であったのがわかる。生徒はよく学びよく遊んで学校生活を謳歌し、また、「広校生」としての誇りを常に忘れなかった。

昭和二十四年(1949)、広島大学創立によって広島高等学校は包括され、「広島大学広島高等学校」となった。在籍していた生徒が

全員卒業した昭和二十五年(1950)三月、広島高等学校は廃止されて昭和二十五年(1950)から「広島大学皆実分校」となる。皆実分校は「教養部」と通称され、広島大学の一般教養教育を担うことになった。昭和三十六年(1961)三月、キャンパスの統合・整理に伴い、皆実分校は大学本部のある東千田地区に移転する。昭和三十六年四月からは「分校」となり、昭和三十九年(1964)四月、通称であった「教養部」が正式名称となる。さらに昭和四十九年(1974)、「総合科学部」に改組され、現在に至っている。

詳しいことは不明であるが、広島高等学校が所蔵していた本の大半は、そのまま広島大学総合科学部まで受け継がれたようである。そして平成五年(1993)三月、総合科学部の東広島キャンパス移転が完了、同年七月に大量の所蔵本が広島大学西図書館⁴(同年二月完成、十月業務開始)に移管された。

その後、図書についてはOPAC登録が進み整備されていったが、

一方で唐本・和本の所蔵状況はほとんど把握されないまま、今日まで至った。広島高等学校時代の冊子目録は現存せず、カード目録にも不備がある。広島高等学校・広島大学教養部・総合科学部旧蔵本の所蔵状況を知るには、一点ずつ書誌調査をするしか術がない。そこで平成二十三年（2011）の春頃から予備調査を始め、六～七月の二ヶ月間、集中的に調査を実施した。本稿はその成果報告である。

稿者は平成十九年（2007）四月に広島大学図書館研究開発室に着任してまもなく、中央図書館和装資料室所蔵漢籍整理に取り組み始めた。すると、複数の図書館職員から「西図書館にも沢山の漢籍がある。こちらでも何とか整理できないだろうか」との要望が寄せられた。これを受けて平成二十年（2008）夏、西図書館所蔵の唐本・和本の状態調査を行った。しかしながら、その頃は中央図書館の漢籍整理以外にも、劣化したマイクロフィルムの対処や平成二十一年度概算要求「検地帳と古地図で甦る世界遺産―中国五県土地租税資料の補修保存・公開プロジェクト⁵⁾」、複数の企画展示等、様々な仕事を抱えてしまい、研究開発室の最も重要な職務である古典籍目録作成に集中できずにいた。そのため状態調査とはいっても、当時西図書館担当の田中千佳主査の案内によって大まかに書架を見て回る程度しかできず、大変無念に思っていた。

ところが平成二十二年度（20104）、文学研究科研究員に着任し、『広島大學漢籍目録』刊行に携わることになり、この度、西図書館を調査する機会を得た。漢籍は約四百点、和本は約百点であった。

刊行計画に基づいて漢籍の目録作成を優先したが、和本（和刻本・準漢籍以外）についても簡略なリストを作成した⁶⁾。

調査で大変役に立ったのは、田中主査作成の「線装本棚数リスト」である。図書館の仕事は世間がイメージする程、優雅ではない。特に近年、サービスの多様化・業務の複雑化が加速している上に、人員削減によって職員の負担は増えるばかりである。そのような状況の中で、図書館職員としての責任感からこつこつと概数リストを作成された田中主査に敬意を表すると共に、感謝を申し上げたい。

現在西図書館担当の寺見俊昭主査・二本松昌美氏・神崎美樹子氏にも、心より御礼申し上げる。少人数で多忙な上に、酷暑と節電で疲労困憊なのにも関わらず、稿者の調査が円滑に進むようにといつも細やかに気を配ってくださった。それに皆様の僅かな休憩時間に、古典籍と一緒に見ながら話をするのはとても楽しく、調査への気力の糧となった。

目録作成・分類・排列に関しては既発表の目録⁷⁾と同じく、文学研究科中国思想文化学研究室の野間文史教授と中国文学語学研究室の富永一登教授の御指導を賜った。和刻本・準漢籍については、日本語学日本文学研究室の久保田啓一教授に御教示を仰いだ。日々勉強させていただいていることに、ただひたすら感謝を申し上げるばかりである。

このように多くの方々の御援助によって稿を成すことができたが、紙数の都合により経・史しか掲載できず、子目も記せなかった。

子・集・叢書・準漢籍は、続編として又の機会に発表したい。

一 蔵書紹介

目録の前に、調査中に会った本を少し紹介しておきたい。

経部小学類音韻之屬『古今韻會舉要』は、慶長元和古活字本である。図書館原簿で調べてみると、該本は分校時代の昭和三十七年(1962)十月の受入で文学科が一万七千七百円で購入、納品者欄に「弘文莊 反町茂雄」と記されていた。野間教授・富永教授に御報告したところ、「文学科国文学教室の三迫初男教授が購入されたのでしよう」とのことであった。

集部詞曲類詞選之屬『詞綜』も、三迫教授の購入である。該本は刊記が無いので目録では「康熙十七年序刊本」としたが、刷りの状態が良いので清初の刊本と思しい。原簿を見ると、皆実分校時代の昭和三十六年(1961)に八千五百九十五円で購入、購入者はやはり国文学教室で、納品者欄には「斉藤兼蔵」とあった。斉藤兼蔵氏が店主の琳琅閣書店にメールで問い合わせたところ、「三迫先生にはご愛顧をいたしておりました」との返信を頂戴した。他にも三迫教授購入の漢籍を複数確認している。

原簿を概観すると、広島高等学校時代から漢籍は蒐集・寄贈によって着実に充実していき、皆実分校・教養部時代に至り、三迫教授によって、学術的価値の高い本が蒐集されたのが看取できる。このように前身校から広島大学までの蔵書構築の様相を垣間見ること

ができた。

漢籍以外でも、「慶長十二丁未曆九月日」の刊記を持つ小槻伊治訓点『御成敗式目』を見つけた。久保田教授によれば、やや後刷ではあるが刷りは良く、刷った時期は慶長年間からさほど下るまいとのことである。ただ、花押の練習書らしき書入が多い。虫損はない。

久保田教授には『御成敗式目』の他、前掲『古今韻會舉要』や『唐詩品彙』『東坡策』『笑雲和尚古文眞寶之抄』『新編江湖風月集略註』といった和刻本・準漢籍も見えていただいた。まず『古今韻會舉要』であるが、古活字版は有界二種と無界一種の三種がある。広島大学本(以下、広島大学所蔵の本は「広大本」と省略)は無界で、『弘文莊古活字版目録』掲載の慶長元和版(163番)と版式・字形が一致する。どちらも10冊本であるが、目録掲載本は原装で、広大本は後装である。また、広大本には古典籍蒐集家の英国人フランク・ホーラー(1906~1961)の蔵書印「寶玲文庫」が押捺されている。

『増訂版弘文莊待賈古書目録索引』で広大本と思しき本は、「合十冊」とある、第18号(昭和二十四年<1949>十月刊)・第21号(昭和二十六年<1951>十一月刊)記載の「古活字版 慶長中刊」本であった。前述のように広大本は『弘文莊古活字版目録』の慶長元和版と同版だが、帙題簽に手書きで「慶長中刊」とある。「この「合十冊」とある二点は同じ本ではないだろうか。二度記載したが売れなかった本を、昭和三十六年になって三迫教授が購入されたのかも知れない。『弘文莊待賈古書目録』第18号・第21号に蔵書印「寶玲文庫」

の記載があれば、この「合十冊」は広大本であろう」というのが、この時点における久保田教授の御見解であった。

そこで後日、稿者が第18号・第21号で詳しい書誌を確認したところ、印「寶玲文庫」の情報に記されておらず、「第二冊巻末に少しく破損あり」（第18号）「第二巻の巻首二葉缺」「雙邊有界」（第21号）とあり、「合十冊」の書誌は広大本と明らかに異なっていた。つまりは、広大本は『弘文莊待賣古書目』に掲載されていない本だったのである。¹²

その他についても、『増補古活字版の研究』¹³『弘文莊古活字版目録』¹⁴『江戸時代初期出版年表―天正十九年～明暦四年―』¹⁴で調べてみると、『唐詩品彙』『東坡策』は近世木活字版、『笑雲和尚古文眞寶之抄』『新編江湖風月集略註』は古活字版の被せ彫りであろうと、久保田教授から御教示いただいた。

『笑雲和尚古文眞寶之抄』（準漢籍 13冊）は元和三年版の被せ彫りである。『増補古活字版の研究』の元和三年版の写真（159番 高木文庫本 13冊）と比較すると、広大本には元和三年の刊記が無いが、字数・字体は同じである。ただし写真が不鮮明で、版式は十分に確認できなかった。『新編江湖風月集略註』（準漢籍）は、慶長元和中版と寛永三年版の二種類（どちらも2冊）がある。広大本（2冊）は慶長元和中版の被せ彫りで、『弘文莊古活字版目録』の慶長元和中版の写真（174番）と比較すると、慶長元和中版は有界、広大本は無界という違いはあるが、字数・字体等は同じであった。

他にも興味深い本はあるが、残念ながら一点ずつじっくり調査する時間がない。広島大学は唐本・和本の整備が遅れている。迅速に調査を進め、目録情報を一刻も早く公開しなければならぬ。洋装の図書も、図書館が毎年予算を捻出し大量の本を遡及入力しているが、それでも整備がなかなか追いついていない。既に拙稿¹⁵で述べたが、この遅滞の原因は前身校が九校にも及ぶ広島大学の成り立ちの複雑さ、それに伴う統合移転の多さ、野間教授が「たこつぼ型」¹⁶と表現されたような研究体制と、原爆による罹災である。

原爆で焼けた夥しい数の本や統合移転の時に紛れてしまった本のこと、前身九校によって「学都広島」と称された歴史を思えば、早く整備を完了しなければならぬ。昭和二十年（1945）八月六日は、不運なことに広高生が学徒勤労動員として働く工場（山口県下松市の東洋鋼板・広島市向洋の日本製鋼所）の公休日であった。¹⁷広島市中心部に帰っていた生徒・教職員は爆死し、皆実町の校舎は甚大な被害を受ける。校舎にあった本は焼失したであろうが、疎開させていたのであろう、唐本・和本の多くと原簿は残っている。¹⁹それらが広島高等学校旧蔵本として今、広島大学に所蔵されているのである。目録をご参照願いたい、広島高等学校旧蔵本は決して少なくない。広島文理科大学・広島高等師範学校等、他の前身校も同様で、罹災を逃れ生き延びた本は、図書館や文学部等に所蔵されている。

広島が「復興都市」を名乗り、国内外の人々にとっての復興の道標であろうとするならば、また、広島大学が学都広島の伝統を受け

継ぎ、それを礎に発展を続ける総合大学であるならば、どの前身校のどの本がどのように残っているのか、さらに広島大学創立以後、どのような本が蒐集或いは寄贈されたのかを可能な限り解明し、整備を遂げなければならないと思う。調査をしていると、蔵書群の存在そのものが広島大学の伝統であり、個性であると痛感する。広島大学に限らず、目録とは、所蔵機関の歴史やアイデンティティの表現でもある。目録作成とは学術情報基盤を整備することであるが、時には、所蔵機関に宿る精神をこぼで紡ぐ行為なのかも知れない。前身校から現在まで継承・蒐集してきた蔵書は広島大学の誇りであり、大切な学術情報資源である。目録化・公開によって広島大学所蔵本の書誌情報が国内外に広く共有され、知の活性化に貢献できるように、本稿でも引き続き、諸先生方からの御指導御鞭撻のほどを切にお願い申し上げます。

二 凡例

一、本稿でいう「漢籍」は、唐本以外に朝鮮本・準漢籍・和刻本漢籍も含む。

一、書名・巻数・冊数・資料番号・撰者・鈔刻を記した。必要に応じて蔵書印等の書誌情報を記した場合もある。

一、特に記さない限り、全て練装本（袋綴）である。

一、『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』・『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録』・『京都大学人文科学研究所東アジア人文情

報学研究センター「全国漢籍データベース」を参考に、目録作成と四部分類による分類・排列を行った。

一、資料番号の表記は以下通りである。

○広島高等学校の蔵書印「広島高等学校圖書印」がある本…「廣高・和漢書／資料番号」

○広島大学皆実分校時代の蔵書印「広島大学皆実分校圖書之印」がある本…「皆・和漢書／資料番号」

○広島大学分校・広島大学教養部の受入印「広島大学図書・教養部・資料番号」「広島大学図書・教養・資料番号」がある本…「教養・資料番号」

○広島大学総合科学部の受入印「広島大学図書・総・資料番号」がある本…「總・資料番号」

一、「受入なし」とある本は、退職した教員が残した私物だと思われる。

一、民国以後の出版の本は（ ）内に西暦年を記した。

一、割書は（ ）内に記した。

三 經部

經正文及注疏合刻類

宋本十三經注疏四百十六卷附校勘記四百十六卷附校勘記識語四卷

清阮元撰校勘記 清盧宣旬摘錄 清汪文臺撰校勘記識語 光緒十三年上

海脈望仙館用嘉慶二十年至二十二年江西南昌府學重刊本石印

又
書類
22冊 [廣高・和漢書 / 8332]
禮類 周禮之屬
5冊 [廣高・和漢書 / 1931]
虞齋考工記解二卷 宋林希逸撰 刊本 封面「通志堂藏板」版心「通志堂」
2冊 [皆・和漢書 / 26097]

古文尚書殘一卷附解說 存卷第六 漢孔安國傳 日本內藤湖南撰解說
昭和十四年東京東洋文庫用元德二年中原康隆手鈔本景印 東洋文庫叢刊
第五 卷子本
1軸 [皆・和漢書 / 11582]
周禮古學攷十卷附一卷 清李滋然撰 民國二十三年(1934)重排印本
3冊 [廣高・和漢書 / 5239]

古文尚書殘三卷 存卷第三第五第十二 漢孔安國傳 大正七年東京東洋文庫用東京岩崎氏藏鈔本景印 卷子本 題簽「舊鈔古文尚書」
1軸 [皆・和漢書 / 11583]
禮類 三禮總義之屬
欽定三禮義疏 清莊恪親王允祿等奉敕撰 同治七年浙江李瀚章景刊本
84冊 [廣高・和漢書 / 2250]

尚書正義二十卷附校勘記二十卷 唐孔穎達等奉勅撰 日本東方文化研究所經學文學研究室校定併撰校勘記 昭和十四年至十八年京都東方文化研究所排印本 十三經注疏定本之一 東方文化研究所報告第十四冊 題簽題・扉題「尚書正義定本」
8冊 [廣高・和漢書 / 6744]
春秋類 春秋左傳之屬
春秋類對賦一卷 宋徐晉卿撰 刊本 通志堂經解之一 春秋諸國統紀六卷 [廣高・和漢書 / 40] と合冊 1冊 [廣高・和漢書 / 40]

毛詩要義二十卷 宋魏了翁撰 光緒十二年江蘇書局刊本
12冊 [廣高・和漢書 / 39]
左繡三十卷首一卷 清馮李驊 陸浩同撰 嘉永七年據阿波貫名苞須靜堂藏康熙五十九年序刊本重刊大阪積玉圃柳原喜兵衛後印本 第十六冊裏見返「(和漢西洋)書籍賣捌所 / 大阪心齋橋通北久太良町 / 積玉圃 柳原喜兵衛」
16冊 [廣高・和漢書 / 1936]

詩古微上編三卷中編十卷下編二卷首一卷 清魏源撰 光緒十三年序埜葉山房席氏補刊本 印「埜葉山房督造書籍」版心「埜葉山房席氏補刊」
12冊 [廣高・和漢書 / 186]
董子春秋繁露十七卷附錄一卷 漢董仲舒撰 清盧文弨校 光緒二年浙江書局據盧氏抱經堂本重刊
2冊 [廣高・和漢書 / 188]

韓詩外傳十卷 漢韓嬰撰 日本鳥山宗成校 寶曆九年刊明治十八年大阪森本專助等補刊大阪青木恒三郎後印本 見返「明治乙酉年補刻 / 韓詩外傳 / 大阪書房 嵩山堂 松泉堂」版心「星文堂藏」
春秋類 春秋總義之屬
春秋諸國統紀六卷 元齊履謙撰 刊本 通志堂經解之一 春秋類對賦一卷 [廣高・和漢書 / 40] と合冊 1冊 [廣高・和漢書 / 40]

傳 / 大阪書房 嵩山堂 松泉堂」版心「星文堂藏」

春秋類 春秋公羊之屬
董子春秋繁露十七卷附錄一卷 漢董仲舒撰 清盧文弨校 光緒二年浙江書局據盧氏抱經堂本重刊
2冊 [廣高・和漢書 / 188]

春秋類 春秋總義之屬
春秋諸國統紀六卷 元齊履謙撰 刊本 通志堂經解之一 春秋類對賦一卷 [廣高・和漢書 / 40] と合冊 1冊 [廣高・和漢書 / 40]

四書類 學庸之屬

中庸或問一卷 宋朱熹撰 日本山崎闇齋點 日本刊本

1冊 [廣高・和漢書/2044]

四書類 孟子之屬

增補蘇批孟子二卷 宋蘇洵原本 清趙大浣增補 日本藤澤恒校疏 明治

十三年愛媛縣藤澤氏泊園書院刊本 4冊 [廣高・和漢書/162]

孟子文評不分卷 清趙承謨撰 民國中上海交通圖書館石印本

4冊 [廣高・和漢書/56]

四書類 四書之屬

論語十卷中庸一卷 宋朱熹集注併章句 日本刊本 版心「梅村藏版」

4冊 [受人なし]

四書疑節十二卷附校勘記一卷附校勘續記一卷 元袁俊翁撰 清魏元曠

撰校勘記 清胡思敬撰續記 民國五年(1916)南昌豫南昌退廬刊本版

心「豫章叢書」 4冊 [廣高・和漢書/185]

新訂四書補註備旨十卷 明鄧林撰 清裔孫鄧煜編次 清杜定基增訂 民

國九年(1920)序上海昌文書局石印本

8冊 [廣高・和漢書/5151]

四書大全說約合參正解三十卷附四書正解字畫辨訛一卷 清吳荃輯

清丁燦等校 日本三雲義正訓點 元祿十年京都平安城書林天王寺屋市郎

兵衛好廷刊本 見返「重新訂正」丹陽吳孫右先生彙輯／太史車鶴田先生

鑒定／四書正解／平安城書林 水玉堂梓行]

10冊 [廣高・和漢書/1930]

孝經類

古文孝經一卷附仁治本古文孝經解說 舊本題漢孔安國傳 日本林秀一

撰解說 昭和十四年京都貴重圖書影本刊行會用京都內藤湖南氏舊藏仁治

二年清原教隆校點鈔本景印 卷子本 1軸 [皆・和漢書/11574]

古文孝經一卷 漢孔安國傳 □闕名直解 昭和六年足利學校遺蹟圖書館

用所藏鈔本景印 1冊 [廣高・和漢書/3186]

諸經總義類 諸經總義之屬

經學通論五卷 清皮錫瑞撰 民國十二年(1923)上海商務印書館用原刊

本景印 經學歷史一卷 [廣高・和漢書/306] 下同帙

5冊 [廣高・和漢書/54]

諸經總義類 諸經授受源流之屬

漢學師承記八卷經師經義目錄一卷宋學淵源記二卷附記一卷 清江藩

撰 上海文瑞樓排印本 4冊 [廣高・和漢書/305]

經學歷史一卷 清皮錫瑞撰 民國十二年(1923)上海商務印書館涵芬樓

用原刊本景印民國十三年(1924)再版本 經學通論五卷 [廣高・和漢書

/54] 下同帙 1冊 [廣高・和漢書/306]

諸經總義類 目錄叢刻之屬

經義考三百卷 原闕卷第二百八十六第二百九十九第三百 清朱彝尊撰

光緒二十三年浙江書局刊本 50冊 [廣高・和漢書/187]

通志堂經解 清納蘭性德輯 同治十二年粵東書局重刊本 菊坡精舍藏板

480冊 [廣高・和漢書/5223]

皇清經解一千四百八卷 清阮元輯 道光九年序廣東學海堂刊咸豐十一年

善化勞崇光等補刊本

258册 [廣高・和漢書/2252]

皇清經解一百八十種

清阮元輯

光緒十八年上海古香閣據道光九年廣東

學海堂刊本石印

皇清經解橫直縮編目十六卷 [廣高・和漢書/1657]

と同帙

64册 [廣高・和漢書/1657]

經苑 清錢儀吉輯

同治七年跋刊本

77册 [廣高・和漢書/5156]

皇清經解續編一千四百三十卷

清王先謙輯 光緒十四年序南菁書院刊

本

320册 [廣高・和漢書/2253]

皇清經解橫直縮編目十六卷

闕卷第一第二 清凌忠照等輯 石印本

皇清經解一百八十種

[廣高・和漢書/1657]と大きさが同じと同帙

光緒十八年上海古香閣石印本か

3册 [廣高・和漢書/1657]

小學類 訓詁之屬

輶軒使者絕代語釋別國方言十三卷首一卷附續方言三卷附續方言補一

卷 漢揚雄撰

晉郭璞注

清杭世駿撰續方言 清程際盛撰續方言補

光緒十七年思賢講舍刊本

2册 [廣高・和漢書/1409]

輶軒使者絕代語釋別國方言箋疏十三卷

清錢繹撰 光緒十六年紅蝠山

房刊本

6册 [廣高・和漢書/1408]

駢雅訓纂十六卷首一卷

清魏茂林撰 道光二十五年龍巖魏氏有不爲齋刊

咸豐元年補刊本

印 [岡田眞之藏書]

8册 [教養・43100]

經籍纂詁一百六卷附補遺

清阮元撰 清臧輔等校 光緒六年淮南書局補

刊本

48册 [廣高・和漢書/3466]

新方言十一卷嶺外三州語一卷

章炳麟撰 民國六年(1917)至八年

(1919) 浙江圖書館刊本 章氏叢書之一

小學類 說文之屬

2册 [廣高・和漢書/1410]

說文解字注十五卷附說文部目分韻一卷附六書音均表五卷附說文提要

一卷附徐星伯說文段注札記一卷附龔定菴說文段注札記一卷附桂末

谷說文段注鈔一卷附補鈔一卷附說文通檢十四卷附首一卷附末一卷

清段玉裁撰 清陳奐撰部目分韻 清陳建侯輯提要 清徐松撰徐星伯札記

清龔自珍撰龔定菴段注札記 清桂馥撰鈔併補 清黎永椿撰通檢 民國

十二年(1923) 上海掃葉山房石印本 通檢第三版增刻

13册 [廣高・和漢書/58]

文字蒙求四卷

清王筠撰 上海文瑞樓石印本

2册 [廣高・和漢書/60]

說文解字詁林十五卷前編三卷後編一卷附編一卷通檢一卷補

遺十五卷前編三卷後編一卷補遺之續不分卷又一卷補遺通檢一卷

丁福保輯 民國十七年(1928)至二十一年(1932) 上海醫學書局石印本

82册 [廣高・和漢書/5890]

小學類 各體字書之屬

正字通十二集首一卷 明張自烈原本 清廖文英輯 刊本

25册 [教養・32552]

康熙字典十二集附總目附檢字附辨似附補遺附備考附等韻 清康熙

五十五年敕撰 刊本

40册 [皆・和漢書/10476]

康熙字典十二集附總目附檢字附辨似附補遺附備考附等韻附字典琢屑

附字典初學索引 清康熙五十五年敕撰 日本都賀庭鐘等撰字典琢屑日

本都賀枝春撰字典初學索引 安永七年序大阪秋田屋市兵衛等刊本

41冊 [廣高・和漢書／1326]

滿漢字清文啟蒙四卷 清舞格撰 清程明遠校 雍正八年序刊本 中和堂藏板

4冊 [皆・和漢書／11745]

清文彙書十二卷 清李延基撰 京都隆福寺胡同三槐堂書坊刊本 京都大學人文科學研究所所藏內藤文庫本(内藤74)の卷一巻頭に「四合堂藏板」とあるが、該本では「四合」が削除され「堂藏板」とある³⁶⁾

12冊 [廣高・和漢書／11910]

小學類 音韻之屬

集韻考正十卷 清方成珪撰 光緒五年跋瑞安孫氏詒善祠塾刊本

10冊 [教養・29778]

古今韻會舉要三十卷 元熊忠撰 慶長元和中據嘉靖十五年慈谿秦鉞樂安

李舜臣刊本古活字印 印「寶玲文庫」後裝

10冊 [教養・31611]

中原音韻不分卷附校勘記一卷附中洲樂府音韻類編一卷附校勘記一卷

元周德清撰 陸志章楊耐思同撰校勘記 元卓從之撰音韻類編 陸志章廖

珣英同鈔校 民國六十七年(1978)北京中華書局用中國科學院文學研究所藏正統六年跋刊本景印 類編用北京圖書館藏明刊本景印 校勘記排印

3冊 [總・200835~7]

四 史部

正史類 合刻之屬

二十四史附考證 民國十二年(1923)上海中華書局用光緒十八年武林竹

簡齋影殿本景印 200冊 [廣高・和漢書／465]

正史類 分刻之屬

後漢書九十卷附續漢志三十卷 闕續漢志三十卷 劉宋范曄撰 唐李賢

注 晉司馬彪撰續志 梁劉昭注 日本據大德九年寧國路儒學刊本重刊

60冊 [廣高・和漢書／3748]

五代史七十四卷 宋歐陽修撰 宋徐無黨注 明楊慎評 明鍾名臣訂 日

本堀正脩校 安永二年刊文化十年大阪前川嘉七等補刊大坂河内屋喜兵衛

等後印本 見返「慶應四辰年補刻／藝陽堀正修校／五代史／浪華 積玉

圃藏」 15冊 [廣高・和漢書／6541]

正史類 注補表譜考證之屬

史記通論 楊啓高撰 民國十五年(1926)清山閣排印本 圖書

1冊 [廣高・和漢書／1411]

漢書評林二百卷 明凌稚隆輯校 明曆四年跋刊本 刊記「書坊 林和泉

掾板行／松相堂 時元／明曆三年丁酉仲秋吉旦」

50冊 [廣高・和漢書／3747]

漢書補注一百卷 清王先謙撰 民國中上海文瑞樓據長沙王氏刊本石印

40冊 [廣高・和漢書／934]

三國志集解六十五卷補二卷 盧弼撰 民國四十六年(1957)北京古籍出

版社排印本

金史詳校十卷史論五卷一冊 清施國祁撰 光緒六年會稽章氏刊本

10冊 [廣高・和漢書／938]

廿二史攷異一百卷 清錢大昕撰 乾隆四十五年序潛研堂錢大昕刊本 序

補鈔

26冊 [廣高・和漢書／466]

校史隨筆不分卷 張元濟撰 民國二十七年(1938)長沙商務印書館排印

民國二十八年(1939)再版本 2冊 [皆・和漢書／21668]

廿四史傳目引得 梁啓雄編 民國二十五年(1936)上海中華書局排印

民國二十九年(1940)再版本 函書 1冊 [廣高・和漢書／7576]

編年類 通紀之屬

資治通鑑二百九十四卷 宋司馬光奉敕撰 元胡三省音注 日本山名善讓

訓點 明治十七年東京鳳文館銅版印本 70冊 [廣高・和漢書／6]

通鑑學要前編二卷附錄一卷正編十九卷續編八卷明史學要八卷 清姚

培謙 張景星同撰 日本長戶讓等點併校 天保五年大阪柏原屋武助等刊

本印「東京師範學校圖書印」「鶴岡藏書」「篠山藏版」

15冊 [廣高・和漢書／2045]

編年類 實錄之屬

嘉慶三年太上皇帝起居注冊四卷 清文寧等撰 民國十九年(1930)國

立北京大學研究所國學門用清內府鈔本景印

1冊 [皆・和漢書／11750]

紀事本末類

釋史一百六十卷世系圖一卷年表一卷 清馬驥撰 光緒十五年金匱浦氏

重修刊本

中西紀事二十四卷 清王韜撰 光緒十三年排印本

8冊 [廣高・和漢書／910]

古史類

國語定本二十一卷 吳韋昭解 宋宋庠補音 日本秦鼎定本 嘉永七年河

內屋源七郎等據文政二年刊本重刊 刊記に「文政二年卯年春初刻」「嘉

永七甲寅年夏再刻」とあり 見返「嘉永七甲寅年再刻」吳韋氏解宋宋氏

補音／尾張秦士鉉先生著／〈春秋外傳〉國語定本／浪華書肆 柳原積玉

團 6冊 [廣高・和漢書／165]

戰國策三十三卷增重刻刻川姚氏本戰國策札記三卷 漢高誘注 宋姚宏

校 清黃丕烈撰札記 民國六十三年(1974)用嘉慶八年吳門黃丕烈讀未

見書齋重刻本景印 扉「刻川姚氏本戰國策／讀未見書齋重雕」

9冊 [總・230370～5]

別史類

宋史翼四十卷 清陸心源輯 光緒三十二年序歸安陸氏十萬卷樓刊本

10冊 [廣高・和漢書／1630]

清史稿五百三十六卷 趙爾巽等撰 昭和十二年新京村上氏用民國十七年

(1928)清史館排印本景印

131冊 [廣高・和漢書／5053 和漢書／5054]

又 存屬國傳一之²¹⁾

1冊 [廣高・和漢書／5054]

立齋先生標題解註音釋十八史略七卷 元曾先之撰 明陳殷音釋 明王

逢點校 日本巖垣彥明標記 日本巖垣松苗補 明治九年京都書林藤井孫

兵衛等刊第七刻本 見返に「皇都 三書堂梓」とあり

7冊 [廣高・和漢書／164]

雜史類 事實之屬

滿清稗史 陸保塔輯 汪慶祺 汪德軒同校訂 民國三年(1914) 上海新

中國圖書局排印本 18冊 [廣高・和漢書／104]

雜史類 瑣記之屬

太平天國野史二十卷 吳興凌輯 民國十二年(1923) 上海文明書局排印

民國十五年(1926) 第三版本 1冊 [廣高・和漢書／1414]

雜史類 史料之屬

李文忠公朋僚函稿二十四卷 清李鴻章撰 清吳汝綸輯 光緒二十八年

保定府蓮池書院排印本 12冊 [皆・和漢書／28023]

詔令奏議類 奏議之屬

東坡策三卷 宋蘇軾撰 日本木活字印本

3冊 [廣高・和漢書／148]

傳記類 雜傳之屬

新刊全相二十四孝詩選一卷又一卷附解說 元郭居敬撰 日本禿氏祐祥

撰解說 昭和二十一年大阪全國書房用龍谷大學圖書館所藏江戶鈔本景印

2冊 [教養・31796]

元祐黨人傳十卷 清陸心源撰 光緒十五年序刊本

4冊 [廣高・和漢書／1611]

新刻古列女傳八卷新續列女傳三卷 漢劉向撰 明胡文煥校 明闕名撰

續 承應二年京都上村次郎衛門刊本 續承應三年京都上村次郎衛門刊本

題簽「劉向列女傳 一(一五)」 5冊 [廣高・和漢書／2081]

傳記類 自序之屬

湘綺樓日記不分卷 存光緒十八年壬辰至民國五年丙辰 清王闈運撰 民

國十六年(1927) 上海商務印書館排印本 16冊 [總・134835]

傳記類 記言記事之屬

宋朱晦菴先生名臣言行錄前集十卷後集十四卷補遺正誤一卷 宋朱熹

輯 明張采評閱 寬文七年京師書肆風月莊左衛門刊大阪河内屋喜兵衛等

後印本 見返に「浪華 積玉圃製本」とあり

6冊 [廣高・和漢書／151]

地理類 總志之屬

元和郡縣圖志四十卷附攷證三十四卷附闕卷逸文一卷附闕卷逸文三卷

附補志九卷 元和郡縣圖志原闕卷第十九第二十第二十四第三十五第

三十六 唐李吉甫撰 清張駒賢撰攷證 清孫星衍輯逸文一卷 清繆荃孫

校輯逸文三卷 清嚴觀撰補志 民國五十四年(1965) 臺北藝文印書館景

印本 25冊 [教養・56016]

讀史方輿紀要一百三十卷方輿全圖總說五卷附天下郡國利病書一百二十

卷 清顧祖禹撰 清顧炎武撰天下郡國利病書 光緒二十七年圖書集成

局排印二林齋藏板上海文瑞樓重印本 方輿全圖總說光緒二十五年上海二

林齋校定石印上海文瑞樓重印本 60冊 [廣高・和漢書／929]

地理類 今地志之屬

遼東志九卷附解題一卷附校勘記一卷 明畢恭等修 明任洛等重修 日

本稻葉崑吉撰解題 高鳳樓許麟英同撰校勘記 遼海書社據傳鈔本排印

- 遼海叢書之一
4册 [皆・和漢書/11908]
- 黑龍江外記八卷附刊誤一卷 清西清撰 光緒二十六年廣雅書局據原本
重刊 2册 [皆・和漢書/11748]
- 哈密志五十一卷 清鍾方纂修 民國二十六年(1937)禹貢學會據傳鈔本
排印 邊疆叢書甲集之一 2册 [皆・和漢書/11749]
- 地理類 雜地志之屬**
- 欽定滿州源流考二十卷 清乾隆四十二年阿桂等敕撰 刊本 8册 [皆・和漢書/11909]
- 幽蘭居士東京夢華錄十卷 宋孟元老撰 民國中東京秀水金氏梅花草堂用
毛氏汲古閣景宋本景印 秀水金氏梅花草堂影印善本之一 2册 [皆・和漢書/1652]
- 幽蘭居士東京夢華錄十卷 宋孟元老撰 昭和十六年東京靜嘉堂文庫用元
刊本景印 靜嘉堂祕笈之三 2册 [皆・和漢書/27170]
- 演雲歷年傳十二卷 清倪颯撰 道光二十六年昆明倪氏刊本 10册 [廣高・和漢書/1204]
- 地理類 水道水利之屬**
- 水道提綱二十八卷 清齊召南撰 光緒三年四年津門徐士鑾霞城精舍重刊
本 8册 [廣高・和漢書/933]
- 職官類 官制之屬**
- 大唐六典三十卷 唐玄宗李隆基撰 唐李林甫等奉敕注 日本近衛家熙校
享保九年序近衛家藏刊昭和十年京都帝國大學文學部重印本 10册 [廣高・和漢書/4533]
- 增訂館則二十卷新館則一卷即四譯館則 明呂維祺輯增訂館則 清袁
懋德等增輯 清曹溶等輯新館則 昭和三年京都帝國大學文學部東洋史
研究室排印本 2册 [皆・和漢書/11758]
- 欽定歷代職官表七十二卷首一卷 清乾隆四十五年敕撰 光緒二十二年
廣雅書局刊本 24册 [廣高・和漢書/304]
- 政書類 歷代通制之屬**
- 文獻通考三百四十八卷 元馬端臨撰 光緒二十二年浙江書局刊本
150册 [廣高・和漢書/2251]
- 九通 光緒中浙江書局刊本 1000册 [廣高・和漢書/4241]
- 政書類 各代舊制之屬**
- 大元聖政國朝典章六十卷新集至治條例不分卷 元闕名撰 民國六十
一年(1972)臺北國立故宮博物院用元刊本景印 16册 [總・115370]
- 沈刻元典章校補十卷 陳垣撰 民國二十年(1931)國立北京大學研究所
國學門刊本 5册 [廣高・和漢書/3499]
- 盛京典制備考八卷首一卷 清特慎菴撰 清崇厚增輯 光緒二十五年盛京
太和山坊重刊本 6册 [皆・和漢書/11751]
- 政書類 法令之屬**
- 大清律例按語一百四卷 清闕名撰 道光二十七年海山仙館刊本
64册 [皆・和漢書/25409]
- 政書類 考工之屬**
- 濮陽河上記四編 徐世光撰 民國九年(1920)天津徐氏排印本 2册 [皆・和漢書/14922]

政書類 交渉之屬

公法會通十卷 瑞國歩倫撰 美國丁驥良譯 光緒六年同文館排印本

5冊 [教養・29424]

蒙漢滿文三合不分卷 清闕名撰 民國二年(1913)北京正蒙印書局石印

本 12冊 [皆・和漢書/11746]

書目類 公庫箸録之屬

欽定四庫全書總目二百卷簡明目錄二十卷附附存目錄十卷 清乾隆

四十七年敕撰 清胡虔輯附存目錄 同治七年廣東書局重刊本 附存目錄

光緒十年學海堂重刊本

130冊 [廣高・和漢書/1096]

欽定四庫全書簡明目錄二十卷附四庫未收書目提要五卷 清乾隆

四十七年敕撰 清阮元撰未收書目提要 民國八年(1919)石印民國十二

年(1923)上海掃葉山房重印本 封面に「民國八年校印」とあり 末尾

に「掃葉山房發行石印精本書籍目錄 癸亥正月重訂」あり

8冊 [廣高・和漢書/61]

北京圖書館善本書目八卷 北京圖書館善本部撰 民國四十八年(1959)

北京中華書局排印本 8冊 [皆・和漢書/28802]

書目類 家藏知見之屬

八千卷樓書目二十卷 清丁丙撰 錢塘丁氏聚珍做宋版印本

10冊 [廣高・和漢書/1435]

書目類 彙鈔之屬

彙刻書目二十卷附二編十卷 闕卷第一至第六第十三至第十八 清顧修撰

清朱學勤補 清周毓郊撰二編 民國八年(1919)上海千頃堂書局石印本

10冊 [廣高・和漢書/1438]

增訂叢書舉要八十卷附校誤記一卷附重訂徵刻南北宋人集小啓一卷

清楊守敬原輯 李之鼎補併撰附錄 民國七年(1918)南城李氏南昌宜秋

館排印本 40冊 [廣高・和漢書/41]

金石類 纂録考證之屬

歷代鐘鼎彝器款識二十卷 宋薛尚功撰 民國中上海古書流通處用陸友

臨寫汲古閣鈔本景印 4冊 [廣高・和漢書/1649]

石墨鐫華八卷 明趙燏撰 萬歷四十六年序刊本

8冊 [皆・和漢書/11747]

金石萃編一百六十卷附續編二十一卷附補正四卷 清王昶撰 清陸耀通

撰續編 清陸增祥校訂 清方履錢撰補正 民國十五年(1926)上海掃葉

山房景石印本 32冊 [廣高・和漢書/1648]

奇觚室吉金文述二十卷 清劉心源撰 民國六十年(1971)臺北藝文印書

館用光緒二十八年序石印本景印 10冊 [教養・86965]

蔡先生寄古籀篇建首檢字一卷 蔡廷幹撰 昭和二年東京古籀篇刊行會

石印本 1冊 [受人なし]

金石類 彙考文字之屬

字說一卷 清吳大澂撰 民國七年(1918)蘇州振東書社景印本

1冊 [廣高・和漢書/59]

金石類 甲骨之屬

殷契拾遺一卷 陳邦懷撰 民國十六年(1927)石印本

1冊 [廣高・和漢書/1655]

卜辭通纂一卷攷釋三卷索引一卷 郭沫若撰 昭和八年東京文求堂石印本 4冊 [廣高・和漢書/4240]

戦後南北所見甲骨集十三卷戦後寧滬新獲甲骨集二卷 胡厚宣撰 民國五十三年(1964) 用民國四十年(1951) 北京來薰閣書店石印本重印

6冊 [教養・43094~9]

續甲骨文編十四卷附録二卷檢字表二卷 金祥恆撰 民國四十八年(1959) 臺北金氏石印本

4冊 [皆・和漢書/28582]

通鑑全史彙編歷朝傳統録八卷 明劉綬輯 崇禎十五年序刊本

史鈔類

4冊 [廣島大學圖書・教養・43090~3]

注

(1) 広島高等学校以外は、広島文理科大学・広島高等師範学校・広島師範学校・広島女子高等師範学校・広島青年師範学校・広島工業専門学校・広島市立工業専門学校・広島医科大学。

(2) 広島大学五十年史編集専門委員会・広島大学五十年史編集室編広島大学 平成十五(2003)~十九年(2007)。以下、沿革や歴史については同書を参考にした。

(3) 広島高等学校創立五十年記念事業準備委員会記念誌部編 広島高等学校同窓会 昭和四十八年(1973)。

(4) 広島大学図書館は、東広島キャンパスにある中央図書館・西図書館・東図書館、霞キャンパスにある霞図書館、東千田キャン

パスにある東千田図書館の五館で構成されている。
(5) なお、これらの活動成果報告は以下の通り。
○赤迫照子「広島大学図書館におけるマイクロ資料劣化対策―原因と対処―」(『広島大学総合博物館研究報告』第1号 広島大学総合博物館 平成二十一年(2009)十二月)。
○広島大学図書館研究開発室赤迫照子・東京修復保存センター「平成二十一年度中国五県土地・租税資料文庫地帳修復及びデジタル画像データ作成業務報告書」(<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00031176>)。
○広島大学図書館研究開発室赤迫照子・東京修復保存センター「平成二十一年度中国五県土地・租税資料文庫地帳修復及びデジタル画像データ作成業務報告書(慶安年間分)」(<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00031177>)。
(6) 和本も目録化を進め、冊子目録刊行をしなければならない。また、国内外に広島大学所蔵本の情報を広く配信するために、調査カードに一点ずつ書誌事項を記録し、国文学研究資料館の「日本古典資料調査データベース」への登録を推進する必要がある。
(7) 既発表の目録は以下の通り。
①「広島大学所蔵『文選』目録」(『中国学研究論集』第24号 広島中国文学会 平成二十二年(2010)四月)。
②「広島大学所蔵漢籍目録 集部」(『中国学研究論集』第26号 平成二十三年(2011)四月)。

- ③「広島大学所藏漢籍目録 經部」(『東洋古典學研究』第31集 東洋古典學研究会 平成二十三年五月)。
- ④「広島大学所藏漢籍目録 子部・準漢籍」(『東洋古典學研究』第32集 平成二十三年十月)。
- (8) 便宜上、まとめて「図書館原簿」と称するが、各校時代の原簿は七種類あり、西図書館に所蔵されている。原簿も広島大学の貴重な宝である。詳細については紙数の都合により省略するが、本稿の続編では記したい。
- (9) 琳琅閣書店は創業明治八年(1875)で、初代店主斉藤兼蔵氏(嘉永三年〔1850〕～明治四十年〔1907〕)以来、代々店主は「斉藤兼蔵」の名前を継承されている。襲名については反町茂雄編『紙魚の昔がたり 明治大正篇』(八木書店 平成二年〔1990〕)の110頁に記載がある。なお頂戴したメールによれば、当時、広島大学に納品したのは現在の三代目斉藤兼蔵氏ではなく、義兄の齋藤佑次氏とのことであった。
- (10) 反町茂雄編『弘文莊待賈古書目』第42号 弘文莊 昭和四十七年(1972)。
- (11) 鈴木徳三編 柴田光彦・雲英末雄増訂 八木書店 平成十年(1998)。
- (12) 『増訂版弘文莊待賈古書目総索引』には古活字版『古今韻會舉要』十一點、五山版二點、古朝鮮版(日本の古活字版を補入)一 points が記されている。この内、古活字版の10冊本は「合十冊」二 points の他に二 points あるが、二 points とも三迫教授購入の昭和三十七年以降の号である。念のため十三 points 全て目録を見てみたが、書誌が一致する本は存しなかった。
- (13) 川瀬一馬著 Antiquarian Booksellers Association of Japan 昭和四十二年(1967)。
- (14) 岡雅彦他編 勉誠出版 平成二十三年。
- (15) 注(7)の③。
- (16) 「広島大学所藏漢籍目録 經部」簡介(『東洋古典學研究』第31集)。
- (17) 注(3) 50～51頁による。
- (18) 校舎の中でも、鉄筋コンクリート造の講堂は大きな損傷がなかった。被爆建物として、平成十年(1998)に登録有形文化財(建造物)に指定されている。
- (19) 広島高等学校に限らず、広島文理科大学等も本を疎開させていたようだが、疎開先等、具体的ことは掴めていない。
- (20) 「全国漢籍データベース」で巻首の画像が公開されているため、広大本と比較することができた。
- (21) 原簿によれば①『清史稿』「廣高・和漢書／5053 和漢書／5054」②同(存屬國傳一之二)「廣高・和漢書／5054」は、同じ日に購入されている。「廣高・和漢書／5053」に欠本があったので、同版でやはり欠本のある「廣高・和漢書／5054」も購入してそれで補い、完本①に整えたのであろう。

广岛大学收藏的汉籍目录

— 广岛高等学校、广岛大学教养部、总合科学部旧藏的书 —

赤 迫 照 子

到现在为止本人发表了广岛大学图书馆、文学部收藏的汉籍目录。本稿，是广岛大学西图书馆所藏的广岛大学总合科学部旧藏的汉籍目录。

广岛大学总合科学部（1974～现在）的前身，是广岛高等学校（1923～1950）。广岛高等学校被广岛大学合并成为广岛大学皆实分校（1950～1961）。此后，又改名为广岛大学分校（1961～1964）、广岛大学教养部（1964～1974）、广岛大学总合科学部。1993年，广岛大学总合科学部向广岛大学西图书馆移交了所藏的图书。那时，被移交书中，有庆长元和年间（1596～1623）的珍贵的活字印刷书。

另外，由于篇幅的原因这次只能刊载经部和史部，子目录也省略了。子部、集部、丛书部、类汉籍将另作发表。